

2022年度第47回 全国伝統的工芸品公募展

JAPAN'S TRADITIONAL CRAFT
COMPETITION 2022

報告書

Exhibition Report



主催：一般財団法人 伝統的工芸品産業振興協会

後援：経済産業省・中小企業庁・日本商工会議所・全国商工会連合会・全国中小企業団体中央会

開催概要

名称	2022年度第47回全国伝統的工芸品公募展 JAPAN'S TRADITIONAL CRAFT COMPETITION 2022	
開催主旨	長い間受け継がれた確かな伝統的技術・技法に、現代生活の様式に合致し、新しいアイデアや表現を取り入れた市場性のある伝統的工芸品を公募し、魅力あふれる製品の開発を行う目的で実施。現代生活で使われるための需要を喚起し、国内だけではなく世界のマーケットにも通じる製品での市場開拓を狙う。	
応募期間	2022年10月1日(土)～10月31日(月)	
審査会	2022年11月30日(水) 国立新美術館	
審査結果発表	2022年12月1日(木)	
応募総数	123工芸品、211点、応募者182名	
審査結果	入賞15点、特選6点、入選101点	

審査委員(敬称略/五十音順)

内田 篤呉	MOA美術館・箱根美術館館長
宇野 万貴子	株式会社高島屋 MD本部 呉服部 日本橋店呉服部長
北村 仁美	国立工芸館 主任研究員
黒川 廣子	東京藝術大学 大学美術館 館長・教授
小稲 彩人	岐阜県セラミックス研究所 主任専門研究員
田中 敦子	工芸ライター
棚町 敦子	「美しいキモノ」エディトリアル スーパーバイザー
塚本 裕之	経済産業省 製造産業局 伝統的工芸品産業室 室長
戸田 敏夫	日本伝統工芸士会 会長 (代理出席：日本伝統工芸士会 副会長 岩間 奨)
日野 明子	クラフトバイヤー
増村 紀一郎	漆芸家 東京藝術大学名誉教授 重要無形文化財「髹漆」保持者
御手洗 照子	有限会社T-POT 代表取締役 株式会社t. gallery 代表取締役
原田 元	一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会 代表理事

内閣総理大臣賞

工芸品名	東京染小紋
作品名	染帯 異空間
製作者	根橋亮一



【講評】

古典的な手法を用いて、現代的なデザインを表現している点が素晴らしい。伊勢型紙の新しい使い方を通じ、モダンさ・凛々しさが表現されており、独特の紋様と色彩が大変見ごたえがある。同時に若手の工芸家の作品であることも高く評価され、内閣総理大臣賞に相応しいとして選定された。

【経歴】

- 1989年 東京都に生まれる
- 2017年 大学卒業後、医療設備メーカーを経て 有限会社千和多染工 入社
父・根橋秀治に師事
- 2019年 第68回全国小紋友禅染色競技会 優秀賞
- 2020年 第69回全国小紋友禅染色競技会
一般社団法人日本絹人織織物工業会賞
- 2021年 第70回全国小紋友禅染色競技会
東京織物卸商業組合賞
第26回全国染織作品展 入選
第46回全国伝統的工芸品公募展 入選



【受賞者の声】

この度は、名誉のある賞を賜りまして誠にありがとうございます。
驚きと同時に大変嬉しく思っております。

この作品は着物をお持ちの方、初めて着物を着る方、それぞれが手に取ってみたいくなる帯を、
という思いから制作しました。まだ、技術的には未熟ですのでこれからも日々技術習得に励んで参りたいと思います。

経済産業大臣賞

工芸品名	南部鉄器
作品名	ブルーレースフラワー
製作者	佐々木奈美



【講評】

無骨なデザインが多い鉄瓶の中で、ひと際目を引く上品さ・優雅さがある。女性職人らしく使い手のことを考えた「軽さ」は大事な要素である。また、現代のライフスタイルでも違和感なく受け入れるデザインとフォルムであるという点が評価され、経済産業大臣賞に相応しいとして選定された。

【経歴】

- 1984年 岩手県に生まれる
- 2007年 東北芸術工科大学美術科洋画コース卒業
- 2007-2012年 岩手県内の美術館に勤務
- 2013年 及川喜徳氏から焼型鑄造法による鉄瓶づくりを学び始める 及喜鑄造所に勤務
- 2016年 第41回全国伝統的工芸品公募展 全国中小企業団体中央会会長賞受賞
- 2018年 第43回全国伝統的工芸品公募展 若手奨励賞受賞
- 2019年 屋号「奈の花」として工房開設
- 2020年 第45回全国伝統的工芸品公募展 若手奨励賞受賞



【受賞者の声】

この度はこのような素晴らしい賞を賜りまして、誠にありがとうございます。この仕事を続けられている事や携わってくださる方々に感謝しております。「この鉄瓶を使いたい」そう思っただけのようなものづくりを目指し、これからも日々の仕事に励みます。

経済産業省製造産業局長賞

工芸品名	大館曲げわっぱ
作品名	Possibility of Magewappa(手洗い鉢と壁掛け鏡)
製作者	柴田昌正



【講評】

形の決められた中で工夫する工芸品・作品が多い中、思い切った発想の転換がされており光っていた。材質・技術とアイテムの整合性があり、インテリアとしても大変魅力的。日本料理店や旅館など、様々な販路が期待できる点も評価され、経済産業省製造産業局長賞に相応しいとして選定された。

【経歴】

- 1973年 秋田県大館市生まれ
- 1998年 大学卒業後、2年間の会社勤めを経て秋田へ戻り
父・慶信に弟子入り、曲げ物の道に入る
- 2006年 第24回くらしの工芸展 審査員奨励賞受賞
- 2010年 有限会社 柴田慶信商店 代表取締役就任
- 2011年 「パン皿(大・小)」「バターケース(小判・丸)」グッドデザイン賞受賞(食卓・調理用品)
- 2012年 「つくし弁当箱」グッドデザイン賞受賞(家庭用品・機器・設備)
「ひと息タンブラー」グッドデザイン賞受賞(生活・家庭用品、キッチン用品)
- 伝統工芸士認定(木部加工部門 507045号)
- 2013年 「臍帯箱」グッドデザイン賞受賞(個人用品、育児・介護用品)
- 2014年 「おむすび弁当箱」グッドデザイン賞受賞(生活・家庭用品、キッチン用品)
第39回全国伝統的工芸品公募展入賞 生活賞(おむすび弁当箱)
- 2016年 第41回全国伝統的工芸品公募展入賞 日本伝統工芸士会会長賞(飯器)
- 2017年 「LEXUS NEW TAKUMI PROJECT2017」にて《iwai》発表 同プロジェクトでグエナエル・ニコラ氏より
「注目の匠」として選出
- 2019年 商業施設「わっぱビルディング」がグッドデザイン賞受賞(取り組み・活動)
- 2020年 大館曲げわっぱ協同組合 理事長就任
- 2021年 第46回全国伝統的工芸品公募展入賞 内閣総理大臣賞(天然秋田杉シャンパンクーラー大、中、小)



【受賞者の声】

「Possibility of Magewappa」はタイトルの如く、新しい曲げわっぱの可能性を見出すべく、新たな販路開拓を意識し、驚きと感動を覚えていただけるよう作品を作り上げました。また、昨年に引き続きの入賞は身に余る光栄です。心より感謝申し上げます。私が受け継いだ技術を若い作り手にも伝え、これからも産地の技術向上、発展に努めていきたいと思っております。

中小企業庁長官賞

工芸品名	京焼・清水焼
作品名	白菊蒼穹茶器揃
製作者	上坂妙(雅号 善妙)



【講評】

しっかりとした清水焼らしさの中に若々しい北欧的な色、線、新しい感性が印象的。見ているだけで晴れやかな気持ちになる作品である。来客を迎え、おもてなしをする絵も想像しやすく、華やかな場面で活躍しそうな点が高く評価され、中小企業庁長官賞に相応しいとして選定された。

【経歴】

群馬県生まれ

2014年 山岡善昇氏師事

2016年 京都府立陶工高等技術専門学校 卒

2019年 独立に伴い “善妙、を銘名

京都文化博物館アートフリーマーケット推薦作家出展

2021年 京都好文舎にて個展

第43回京焼・清水焼展 京都銀行頭取賞受賞

2022年 京都陶磁器会館にて個展

第44回京焼・清水焼展 京都陶磁器協会理事長賞受賞

【受賞者の声】

素晴らしい工芸品の数々の中から、私の作品を選考していただき、ありがとうございます。本当に、ありがたい気持ちでいっぱいです。

私一人の力ではなく、応援していただいている方々、家族、皆さまのお陰で頑張れているので感謝しております。

これからも頑張って作陶してまいりますのでよろしくお願い致します。

日本商工会議所会頭賞

工芸品名	京扇子
作品名	和紙 de WOVEN
製作者	菱田隆之



【講評】

大胆な模様でありながら、竹編みを想像させる透きが効いていて、違和感なく受け入れることができる。色彩の組み方が秀逸、心地のよさに加え、高い技術力とセンスを感じる。夏に限らず通年使用できそうで実用性が高い作品だと評価され、選定された。

【経歴】

- 1965年 京都市に生まれる
- 1988年 大学卒業後、家業の京扇子製造卸ひしだ商店に入店
- 1991年 京都扇子団扇商工協同組合青年部に入会
- 2010年 京都扇子団扇商工協同組合理事に就任
- 2019年 株式会社ひしだ代表取締役社長に就任
- 2020年 扇子ブランド『紗月扇』立ち上げ
- 2021年 第46回全国伝統的工芸品公募展入選

【受賞者の声】

この度は日本商工会議所会頭賞を賜りまして、ありがとうございます。
このような名誉ある賞を頂いたことを励みに、代々受け継がれてきた京扇子製造の技法を大切に守りつつ、新たなデザインや技法技術も取り入れ、創作活動に取り組んで参ります。また、それらを次の世代へと継承すると共に、日々精進していく所存です。

全国商工会連合会会長賞

工芸品名	京友禅
作品名	巾着ショルダー「青貝箔」
製作者	上仲昭浩



【講評】

京友禅の新しい使い方を提案した巾着ショルダーは表情のあるデザインで、存在感がある。青貝箔による渋くも華やかである絶妙な色彩が、しっとりと表現され、洗練された印象が感じられる。また、完成度の高さに対し、お手頃である点も評価され、選定された。

【経歴】

- 1969年 京都生まれ
- 1988年 元橋宏太郎に師事
- 1995年 独立し家業である呉服金箔加工 二鶴工芸に入社
- 1998年 京都府工芸技術コンクール 帯「裂取金唐革」入選 新・京ものコンペティション「テーブルセンター」入選
- 1999年 京都府工芸技術コンクール 帯「松皮取金唐革」入選
- 2000年 京扇子図案コンクール 銅賞
- 2001年 京扇子図案コンクール 銀賞
- 2002年 扇子うちわFADC 入選
- 2003年 京展 着物「満天」入選
- 2004年 京展 着物「月影」入選
- 2006年 京都デザイン優品「デニムショルダーバッグ」入選
- 2008年 京の若手職人「京もの認定工芸士」認定
- 2015年 第40回全国伝統的工芸品公募展「デニム製角帯 七宝」入選
- 2016年 京都府クラフト・コンペティション 審査員奨励賞 受賞「竹節酒器セット」(京焼・清水焼 柴田窯 柴田恭久氏とのコラボ)
- 2018年 第43回全国伝統的工芸品公募展「本革製道中財布 姫路黒棧革 竹節麻の葉銀」入選
- 2019年 第5回 藝文京展「寂軽銀道中財布」入選
- 2022年 OMOTENASHI SELECTION 2022 受賞「金彩ガラス皿 赤富士」



【受賞者の声】

この度は全国商工会連合会会長賞を賜りまして誠にありがとうございます。思わぬ受賞でしたが大変光栄でございます。これからもご使用いただくお客様と思い出や感動を共有していけるようなものを作りたいと思います。

全国中小企業団体中央会会長賞

工芸品名	信州紬
作品名	訪問着「天の原」
製作者	武井豊子



【講評】

染まり方の異なる天蚕糸を用いて、浮織で光を表現した様は、シンプルながらも職人としてのこだわりを感じる。現代風に昇華されたドレスアップ紬として、多くの人に好まれる紬であることが評価され、選定された。

【経歴】

- 1955年 長野県松本市に生まれる
- 1975年 信州大学繊維学部在学中より着物が持つ魅力に誘われ、織元「会津屋」にて研究生として修業。皇后美智子様へ松本紬を献上した信州紬の第一人者(故)永井千治より松本紬の伝統工芸技術を徹底的にたたき込まれる。
- 1979年 独立
- 1992年 長野県染色作家協会の発起人の一人として活動。長野県染色作家協会理事。
- 1998年 日本伝統工芸士認定
- 2000年 松本紬工房「千と勢屋」開設
- 2003年 第28回全国伝統的工芸品公募展「内閣総理大臣賞」受賞
- 2006年 松本市ものづくり伝承塾理事
- 2007年 第32回全国伝統的工芸品公募展「全国中小企業団体中央会会長賞」受賞
- 2008年 シルク博物館全国染織作品展入選
松本市が伝承技術を保存するための映像制作に松本紬を選定指導を務める。
- 2010年 武井豊子の仕事「松本紬へ、深く。」松本市美術館
日本伝統工芸士会作品展「伝産協会会長賞」受賞
第35回全国伝統的工芸品公募展「経済産業大臣賞」受賞
- 2012年 シルク博物館第二十二回全国染織作品展「シルク博物館賞」受賞作品は博物館所蔵となる
- 2016年 武井豊子の仕事展「松本紬を伝える。着物、帯」松本市美術館
- 2022年 仕事展「松本の藍染と紬織」松本市美術館



【受賞者の声】

久しぶりに公募展に挑戦して受賞できたので大変嬉しく思います。
これを励みにまた新たな気持ちでもの作りが続けられそうです。ありがとうございました。

一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会賞

工芸品名	奥会津編み組細工
作品名	山葡萄花結びバック
製作者	矢部晋也



【講評】

思わず手で触れたいくなる、連続した花結びの文様が楽しい。中袋の選び方が良く、蓋つきであるところに作者の心遣いが感じられる。中高年に限らず、若い方が使うイメージもしやすい。年齢を問わない汎用性の高さと実用的な点が評価され、選定された。

【経歴】

- 2014年 第10回会津網み組工芸品展入賞
あいつものづくりコンテスト最優秀賞
- 2015年 第11回会津編み組工芸品展入賞
- 2016年 第15回全国編み組工芸品展入賞
第12回会津網み組工芸品展入賞
- 2017年 あいつものづくりコンテスト最優秀賞
- 2018年 第43回全国伝統的工芸品公募展入選
- 2019年 第15回会津編み組工芸品展入賞
あいつものづくりコンテスト最優秀賞
第44回全国伝統的工芸品公募展入選
- 2020年 第45回全国伝統的工芸品公募展入選
- 2021年 第46回全国伝統的工芸品公募展入選

【受賞者の声】

この度は「一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会賞」という素晴らしい賞を頂きまして大変ありがとうございます。6月末に材料採集のため入った山で穴に落ち2度も肩の手術をするという大変な年でした。しかし年末にこんなに嬉しいお知らせが届いてこれからも精進していこうと気持ちも新たに持てました。

日本伝統工芸士会会長賞

工芸品名	江戸指物
作品名	いろは筆筒
製作者	渡邊彰



【講評】

棚の引き出しを開け閉めするのが楽しい、生きた技を感じる正統派な指物。それでいて、薬筆筒的なデザインに遊びがある。主張しすぎない取手と木地のバランスが絶妙に良く、完成度が高い点が評価され、選定された。

【経歴】

- 1964年 東京都台東区に生まれる
- 1982年 祖父・渡辺松太郎に師事
- 1992年 東京都伝統工芸青年優秀技能賞受賞
- 1995年 墨田区創作大賞 大賞受賞(ふりむけば雛祭り)
- 1998年 全国伝統的工芸品展 入選(大黒柱)
- 2004年 経済産業大臣指定 江戸指物伝統工芸士認定
- 2016年 東京マイスター受賞
- 2018年 第21回日本伝統工芸士会作品展 経済産業省 九州経済産業局長賞受賞(宝石箱)
- 2022年 第1回東京都伝統工芸士展新作コンクール 金賞受賞(脇置)



【受賞者の声】

この度は素晴らしい賞を頂戴し、誠に光栄に存じます。
この賞を励みに日々コツコツ良い作品作りに精進していきたいと思います。
開催にご尽力頂いた審査員の先生方、運営の皆様には心よりお礼申し上げます。

若手奨励賞

工芸品名	別府竹細工
作品名	亀甲編み蓋付き籠「月華」
製作者	玉井有見



【講評】

様々な試行錯誤の上、伝統的な竹細工という工芸品を、このようなシンプルな形に仕上げたことが伺える。感性が現代的であり、今の生活空間にそのまま置いても全く違和感がない。竹細工の伝統と現代的な感性の両者を感じることが出来る点が評価され、選定された。

【経歴】

1977年 熊本市に生まれる

2019年 大分県立竹工芸訓練センター修了

2022年 第58回くらしの中の竹工芸展 大分県竹産業文化振興連合会会長賞受賞



【受賞者の声】

このたびは若手奨励賞を賜り、大変嬉しく思います。
現代の生活に取り入れやすいデザインを意識し、より多くの方に別府竹細工のことを知っていただけるよう、精進いたします。
ありがとうございました。

若手奨励賞

工芸品名	江戸切子
作品名	orinas
製作者	青山弥生



【講評】

網代組の模様自体は伝統的であるが、現代にあったシャープな表現に落とし込まれており、デザインの良さが光る。何を入れても楽しめる広がりや自由さを感じられる。カジュアルな場面はもちろん、お客様をおもてなしする場面など、広がりや自由さを感じられる点が評価され、選定された。

【経歴】

- 1983年 栃木県に生まれる
- 2008年 葛飾区伝統工芸職人弟子入り支援事業 一期生として(株)清水硝子入社
- 2015年 第40回全国伝統的工芸品公募展 特別賞
- 2017年 第42回全国伝統的工芸品公募展 中小企業庁長官賞
- 2019年 第31回江戸切子新作展 江戸切子親善大使 坂崎賞
- 2020年 第32回江戸切子新作展グラスウェアアーツ社 奨励賞
- 第3回北近江サケグラス公募展 山路酒造賞

【受賞者の声】

この度はこのような賞をいただき誠に光栄です。
今回の作品は気負わず楽しんで使ってもらうことを意識して制作しました。
これからも技術の研鑽に励み、切子の魅力をさまざまに表現し、お伝えしてまいりたいと思います。

若手奨励賞

工芸品名	江戸切子
作品名	蓋物 菊繋ぎ
製作者	篠崎翔太



【講評】

伝統的な菊つなぎの模様がとても上手くまとめられている印象。若手職人の努力や熱意が詰め込まれた小さな作品は、見た目の美しさはもちろんのこと、食事にする酒器やうつわに留まらない可能性を感じる。使う側が楽しみを見つけられる点が評価され、選定された。

【経歴】

1990年 東京都江東区に生まれる

2014年 大学卒業

(有)篠崎硝子工芸所入社

2021年 江戸切子新作展 東京都産業労働局局長賞 受賞

第46回全国伝統的工芸品公募展 入選

2022年 江戸切子新作展 江東区議会議長賞 受賞

【受賞者の声】

力を入れた商品だったので、受賞できて誇らしいです。

バイヤー賞

工芸品名	京都切子
作品名	星羅杯
製作者	西眞り子



【講評】

単一ではなく、グラデーションの色彩感覚が素晴らしい。温かみのある淡い色彩から自然の移ろいを感じ、心に響く。上から覗くと万華鏡のごとく華やかな世界が広がっており、京都の雅さが浮かび上がる。加えて女性にも持ちやすい形状であり、心遣いが感じられることが評価され、選定された。

【経歴】

- 1957年 神戸に生まれる
- 2003年 大阪切子職人高橋太久美氏に師事
- 2006年 京展「入選」
- 2008年 京都工芸ビエンナーレ「入選」
- 2010年 日本伝統工芸近畿展入選
(以降2011.12.13.16.18.19.22年に入選)
- 2013年 暮らしの器と切子ガラスの店「結」(京都)
にて京都切子教室開講
- 2014年 日本伝統工芸展入選
- 2019年 伝統工芸諸工芸展入選
- 2020年 京都伏見の自宅に工房開設



【受賞者の声】

二百年前、ガラスに往復研磨による掘り込みをしたのが切子の始まりとの説があります。江戸後期から明治前期、大阪、京都、江戸で手彫り切子は制作され、その後も近代化を遂げながら、大阪、東京で切子の制作は続いてきました。切子ルーツから現代に京都切子も名を連ねるべく、その機会を賜りましたことに、深く感謝しております。ありがとうございます。

バイヤー賞

工芸品名	波佐見焼
作品名	燦セラ「エコ」コーヒーフィルターセット
プロデューサー	宮木初雄
製作者	山口清久（株式会社 燦セラ）



【講評】

思わず手にとりたくなるデザインであり、実際に使用しているイメージが湧く極めて実用的なセット。価格とのバランスもとれている。半永久的に使用できるというコンセプトは、SDGsの観点からもとても好ましい。昨今のアウトドアブームとも親和性が高い点も評価され、選定された。

【経歴】 山口清久（株式会社 燦セラ）

- 1951年 8月28日生まれ
- 1979年 長崎県波佐見町に有限会社陶芸一作窯を設立
- 2005年 会社を閉める
- 2020年6月 株式会社燦セラを設立
長崎県東彼杵郡波佐見町志折郷1517-1に会社をおく



【受賞者の声】

波佐見焼の伝統技術を活かして、世の中になかった陶器づくりを目指しています。世界中の珈琲愛好家にペーパーレスの「エコ」なコーヒーフィルターを普及させてSDGsに貢献できれば幸いです。

バイヤー賞

工芸品名	本場大島紬
作品名	大島紬コート
製作者	叶若枝



【講評】

大島紬の持つ特性が上手く使われている。絹織物の軽さとたっぷりとしたフォルムは着る人を選ばず、広く訴求できる市場性を感じられる。良く組み合わせられた色と文様は、洋装における大島紬の新しい展開を期待できるという点が評価され、選定された。

【経歴】

- 1949年 鹿児島県に生まれる
- 1968年 大島紬製造に携わる
- 2000年 かごしま特産品コンクール 特賞受賞
- 大島紬洋装 工房TOKARA 開設



【受賞者の声】

大島紬にたずさわり約50年。これまでに培った技術を活かし、これからも作品作りにより一層、頑張っていきたいです。

入選作品一覧(101作品)

工芸品名	出品者名	作品名	都道府県
羽越しな布	大滝順子	山熊田しな布 手提げ	新潟県 山形県
羽越しな布	大滝順子	山熊田しな布 八寸名古屋帯 帯地	新潟県 山形県
本塩沢	酒井織物有限会社	”和”ブルゾン	新潟県
信州紬	小岩井カリナ	プティクリスマス	長野県
信州紬	武井豊子	訪問着「天の原」	長野県
西陣織	岡本義一	和装バック 光彩菱	京都府
赤穂緞通	見並なおこ	新赤穂手織り絨毯 「花結文」	兵庫県
赤穂緞通	宮本理絵	毘沙門亀甲	兵庫県
本場大島紬	叶若枝	大島紬コート	鹿児島県
本場大島紬	有限会社興紬商店	ぼたん	鹿児島県
東京染小紋	根橋亮一	染帯 異空間	東京都
手挿し型小紋	三橋京子	江戸型小紋切詰め洒落帯	東京都
松本本藍型染	浜完治	おもかげ	長野県
有松・鳴海絞	山口善照	総絞り小格子文様	愛知県
手描きカチン訪問着	岡根美貴雄	波の総柄	滋賀県
京友禅	安藤染工	京友禅PCケース	京都府
京友禅	上仲昭浩	巾着ショルダー「青貝箔」	京都府
京鹿の子絞	株式会社京都絞美京 松岡輝一	辻が花絞訪問着「辻の細道」	京都府
京鹿の子絞	株式会社京都絞美京 松岡輝一	アロハシャツ「ITAZIME」	京都府
藍染	株式会社 絹や	天然灰汁発酵建て藍染 絞り革財布	徳島県
琉球びんがた	永吉順子	袋帯 「雪夜のポインセチア」	沖縄県
江戸刺繍	遠藤麻美	みんなでおそろい	東京都
日本刺繍	おかのなな	PASMOss	東京都
京繍	後藤美鈴	花熨斗	京都府
九谷焼	仲田錦玉	緑彩梅花唐草文青粒宝瓶	石川県
九谷焼	宮本雅夫	緑彩酒器揃 笹音	石川県
京焼・清水焼	上坂善妙	白菊蒼穹茶器揃	京都府
萩焼	小川浩延	萩梅花皮鉄鉢盛鉢 五客揃	山口県
伊万里・有田焼	梶原真理江	七宝文メディスンケース	佐賀県
三川内焼	平戸松山	陰刻手平戸青海波寿司皿揃え「月」	長崎県
津軽塗	須藤賢一	麻布紋紗塗入れ子盛り器	青森県
鎌倉彫	青山常昭	いちじく文重箱	神奈川県
鎌倉彫	遠藤英明	ざらざら	神奈川県
鎌倉彫り	森本勲弥	唐草文サイドテーブル	神奈川県
村上木彫堆朱	小杉和也	フリーカップ 錦鯉	新潟県
村上木彫堆朱	鈴木伸也	ぐい呑み 四彩麻の葉	新潟県
木曾漆器	小坂進うるし工房	布目根来螺鈿漆篋	長野県
山中漆器	針谷祥吾	翡翠蒔絵大福寺石花生け	石川県
山中漆器	針谷崇之	Butterfly wings Pierce	石川県
輪島塗	中山強	ふっくらカップ 春秋沈金	石川県
津軽伝統組子	齊藤正美	瓢箪型組子照明	青森県
南部花形組子(七宝)、 サヤ型組子	舘功	組子 掛け軸	青森県
樺細工	木元桜皮工芸	HEART CLOVER 花梨	秋田県
大館曲げわっぱ	柴田昌正	Possibility of Magewappa (手洗い鉢と壁掛け鏡)	秋田県

入選作品一覧(101作品)

工芸品名	出品者名	作品名	都道府県
秋田杉樽樽	有限会社樽富かまた	酒器(小中大)	秋田県
奥会津編み組細工	佐久間宗一	山ブドウバスケット	福島県
奥会津編み組細工	矢部晋也	山葡萄花結びバック	福島県
御盆	當眞嗣人	斑鳩の空、見上げれば	東京都
江戸指物	渡辺和家具製作所	いろは箆笥	東京都
箱根寄木細工	篠田英治	極小寄木宝石箱	神奈川県
箱根寄木細工	本間昇	昇乱寄木抽斗	神奈川県
加茂桐箆笥	三本和好	仙	新潟県
木製照明器具	わにくらふと	千鳥格子照明器具	岐阜県
山中漆器	工房なかじま	鉢(ボール)	石川県
京指物	田原寛季	茶筒	京都府
栢森木工	もこれび堂 早瀬孝志	森の水紋	奈良県
松江藩籐細工	川口淳平	錆籐籠信玄・落実	島根県
江戸和竿	竿貴	真鮒竿	東京都
別府竹細工	玉井有見	亀甲編み蓋付き籠「月華」	大分県
南部鉄器	佐々木奈美	ブルーレースフラワー	岩手県
南部鉄器	澤野諒和	line kettle	岩手県
南部鉄器	高橋大益	丸甌口型鉄瓶二重平鉢	岩手県
南部鉄器	高橋大益	鉄の珈琲焙烙	岩手県
東京銀器	沼田守康	野うさぎ	東京都
鍍金	横塚裕多加	江戸鉄瓶「富士」	東京都
東京銀器	亘理立	古代紋市松角皿揃	東京都
高岡銅器	株式会社竹中銅器	七極	富山県
堺打刃物	株式会社福井	刃道 墨 青一ダ マスク牛刀7寸巾広 総霜降皮柄	大阪府
堺打刃物	笠原重廣	Hoccho	大阪府
京仏壇京仏具	株式会社 金箔押 山村	GOLDLEAF OBJECT	京都府
京仏壇京仏具	株式会社丸三仏壇店	京彩花	京都府
石州和紙	かわひら (石州半紙・和紙製 造販売)	「神の国から」つむぎ糸手編みストール	島根県
川尻筆	畑幸壯	化粧筆 Akebono II	広島県
編み組細工	八幡義友	リバーシブルな山ぶどうかご	岩手県
高崎剣道具	西山啓市	紺鹿革 二分五厘刺 顎 胸 ナナメ刺仕立 剣道具	群馬県
江戸切子	青山弥生	orinas	東京都
江戸べっ甲	有限会社 石川べっ甲製作所	TOWA GLASS	東京都
江戸切子	篠崎翔太	蓋物 菊繋ぎ	東京都
江戸切子	株式会社清水硝子	丸タンブラー「交互縞」	東京都
江戸切子	野口友和	ロックグラス「王冠」	東京都
江戸切子	野口友和	テーブルランプ「王冠」	東京都
甲州印伝	山本裕輔	がまぐち多機能ケース	山梨県
岐阜和傘	高橋和傘店	網代日傘 軒奴	岐阜県
駿河張下駄	花森商店	籐andコルク	静岡県
尾張七宝	田村有紀	孔雀文様七宝宝石箱	愛知県
京都切子	西眞り子	星羅杯	京都府
京扇子	菱田隆之	和紙 de WOVEN	京都府
丸亀うちわ	岡田清子	夫婦獅子頭	香川県
琉球アダン編み	木村麗子	琉球パナマ帽子	沖縄県

入選作品一覧(101作品)

工芸品名	出品者名	作品名	都道府県
庄川挽物木地	横山勝次	ティーポットとポット	富山県
伊勢形紙	佐藤利一	渋あかり「縞」	三重県
真岡木綿	真岡木綿工房	ふきの葉草木染 着尺反物	栃木県
十日町明石ちぢみ	吉澤織物株式会社	光の晶	新潟県
十日町明石ちぢみ	吉澤織物株式会社	星月夜	新潟県
有職小物	合同会社 堺町御門前平七	巾着バッグ	京都府
京鹿の子絞	合同会社monova	KIZOMÉ kizomé+ミニトートバッグ	京都府
波佐見焼	宮木初雄	燦セラ「エコ」コーヒーフィルターセット	長崎県
漆器	旬馬ゆきの	Ninja Never Fights - Ofukuwake	富山県
宮城伝統こけし	こだまproject	Dentoh -伝灯-	宮城県
土佐打刃物	嶋崎絵里	kishimame ペティナイフ	高知県
琉球パナマ帽子	PERIODOS	琉球パナマ PORKPIE HAT	沖縄県

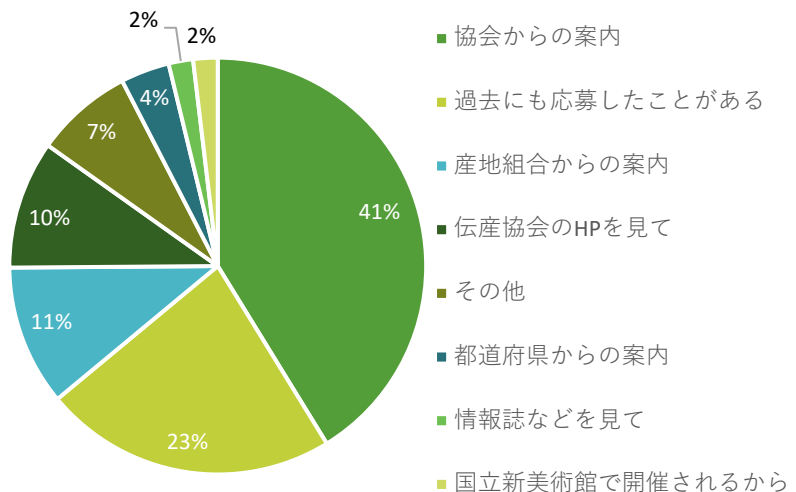
応募概況

業種	工芸品数				応募者数				点数			
	指定	県等指定	非指定	産地数計	指定	県等指定	非指定	産地数計	指定	県等指定	非指定	産地数計
織物	9	5	2	16	17	6	2	25	20	6	2	28
染色品	7	0	5	12	13	0	5	18	18	0	5	23
繊維製品	1	1	1	3	1	1	1	3	2	1	1	4
陶磁器	9	2	0	11	17	2	0	19	22	3	0	25
漆器	8	1	2	11	17	1	2	20	18	1	2	21
木工品	11	5	6	22	13	4	6	23	15	6	6	27
竹工品	2	0	0	2	4	0	0	4	4	0	0	4
金工品	6	1	2	9	17	1	2	20	18	1	2	21
仏壇・仏具	5	0	1	6	7	0	1	8	9	0	1	10
和紙	1	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	1
文具	1	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	1
石工品	1	0	2	3	1	0	2	3	1	0	2	3
人形・こけし	1	0	0	1	2	0	0	2	2	0	0	2
諸工芸	9	4	8	21	15	4	9	28	17	6	10	33
材料・用具	2	0	0	2	2	0	0	2	2	0	0	2
コラボ	1	1	0	2	3	1	1	5	3	2	1	6
合計	74	20	29	123	131	20	31	182	153	26	32	211

応募者内訳

	男性	女性	企業	合計
指定	68	27	36	131
県等指定	7	6	7	20
非指定	15	8	8	31
合計	90	41	51	182

応募のきっかけ



指定 = 経済産業大臣指定伝統的工芸品

県等指定 = 都道府県等地方自治体の指定を受けている工芸品

非指定 = 経済産業大臣および都道府県等の指定を受けていない工芸品

審査講評

審査委員長

東京藝術大学名誉教授 重要無形文化財「髹漆」保持者

増村 紀一郎



コロナ禍やロシアによるウクライナ侵攻などがもたらした社会情勢の中での作業を反映したであろう作品の数々は、日本を代表する建築家「黒川紀章」設計の国立新美術館にて展示および審査されました。天井が高く照明も細部まで行き届いた会場では、出品作品のどれもが優れて見える気がしました。

審査会におきましては、全応募作品から審査委員全員の投票で入選作品を選出した後、投票と合議による選考を経て入賞作品を決定いたしました。その結果101点が入選、6点が特選、15点が入賞を果たしました。

そして令和5年1月19日、東京の明治記念館で「授賞式」を2年ぶりに開催することができ、出席した受賞者の話を聞くことが出来ました。

「内閣総理大臣賞」を受賞した根橋亮一さんは東京都に生まれ、彼が育った環境は新宿と池袋の中間に位置する神田川沿いの街「高田馬場」です。明治、大正、昭和まで染色を生業とする職人たちが行きかう活気ある街を形成しておりました。地場産業の中から登場した彼は34歳ですが、考えもしっかりしており、期待の持てる若手です。

「経済産業大臣賞」を受賞した佐々木奈美さんは、山形の東北芸術工科大学の洋画コース出身。絵を描くことで身についた造形感覚は今に生きています。第41・43・45回の当公募展でも受賞を重ねた実績を持つ南部鉄器の若き担い手です。

「経済産業省製造産業局長賞」を受賞した柴田昌正さんは、民謡「秋田音頭」でも有名な大館曲げわっぱを継承する方です。第39・41・46回の当公募展で受賞を重ね、なかでも昨年には内閣総理大臣賞も受けた技術とデザインする力を併せ持つ経験豊富なベテランです。

「中小企業庁長官賞」を受賞した上坂妙さんは、京都の京焼・清水焼の作家です。彼女の背景からは日本の伝統美と技を感じられる方です。

「日本伝統工芸士会会長賞」を受賞した渡邊彰さんは、江戸っ子の経験豊かな木工指物師です。受賞作の木肌は非常に鉋掛け難度の高い木目ですが、それを美しく削り上げていました。工作少年の心を持った職人さんです。

「若手奨励賞」を受賞した玉井有見さんは熊本県生まれで、4年前に竹工芸の盛んな大分県立竹工芸訓練センターを修了後この道に入った新人ですが、研究熱心で向上心を感じました、将来が楽しみな若手です。

「バイヤー賞」を受賞した叶若枝さんは、本場大島紬製造に携わって55年の大ベテランですが、年齢を感じさせない若さがあります。これからも新作を見せてくれるでしょう。

以上、式場で会話した方の様子を紹介しましたが、受賞者は地場産業の地域に根元がある方々です。伝統工芸はこれまでも・これからも、地元の文化と経済を活性する力があります。この公募展に出品された方たちは、自己の評価・点検はどうかであれ、出品することで全員が一段ステップアップしたことには間違いありません。そして、受賞者に対しては今後の飛躍を応援する役割を果たしたと確信しております。

国立美術館での展示会

会期	2022年12月2日(金)～12日(月) 12/6(火)休館 10:00～18:00 最終日13:00まで
会場	国立新美術館 1階展示室 1D(東京都港区)
来場人数	6,800名



昨年度に引き続き国立新美術館での展示会を実施、応募作品211点を展示しました。6,800名の方々にご来場頂き、公募展をご存じない皆様にも広く工芸品の良さを知って頂く好機となりました。



優秀作品展

会期	2023年1月4日(水)～12日(木) 最終日18:00まで
会場	伝統工芸 青山スクエア(東京都港区)
販売総数	41点



入賞・入選した101点の作品展を行いました。



授賞式

会期	2023年1月19日(木)
会場	明治記念館
参加者	受賞者11名



ポスター・チラシ・DM

◆作品募集

2022年度 全国伝統的工芸品公募展作品募集
JAPAN'S TRADITIONAL CRAFT COMPETITION 2022

2022年10月1日(日)～10月31日(日)
国立新美術館(東京都港区六本木)にて12月上旬に開催
たくさんのお好きな作品をご応募ください!

内閣府 賞状 副賞 30万円 経済産業省 賞状 20万円
経済産業省 賞状 10万円 日本経済新聞 賞状 10万円
日本経済新聞 賞状 10万円 日本経済新聞 賞状 10万円

2022年度 全国伝統的工芸品公募展 作品募集

長い歴史を誇る伝統的工芸品は、現代生活の中で求められる新しいアイデアや表現を取り入れ、発展的な伝統的工芸品を創出し、国内外でも世界的マーケットにも通用する魅力的な国際的発信を行うことを目指しています。

本年最も多くの作品を創出し「賞状副賞」での表彰を受賞し、生活の中で実際に使用可能な作品として、国内外にもっとも愛用され、最も多くの賞状副賞を授けられます。

◆応募資格
経済産業大臣指定伝統的工芸品及びこれに準じる伝統工芸品を主産品として制作する個人、グループ(製作費と共同出品するアーティストを含む)、企業、屋敷合、団体等、(カナルコーススクール個人入会者の応募も、審査対象外となります。)

◆応募の手順
◆応募を希望するアーティストまたはグループから事務局に出品できるようなりました。
公式WEBサイトの「応募フォーム」より入力・提出してください。
◆希望の賞状、郵送品も可能です。
◆賞状の受付期間
2022年10月1日(土)～10月31日(月)

◆期待する作品
◆「手回し」が主となり、「明日から一生使える」伝統工芸品を期待しております。
◆現代生活に即した内容、また、暮らしに馴染みやすいデザインやアイデア、
◆「昔の暮らしを取り入れて、いつまでも大切にしたい」と思える作品
◆工芸品としての芸術的な魅力を引き出したが、また、日常生活で活用可能な作品

◆賞
内閣府賞状、・・・・・・30万円
経済産業賞状、・・・・・・20万円
経済産業賞状副賞(賞状、副賞) 10万円 他

◆展示会
「国立新美術館(東京都港区六本木)」にて展示会を実施し、たくさんのお好きな作品を鑑賞する機会があります。
また、入賞入選作品は「国立新美術館入賞展」でも展示されます。

◆スケジュール

応募期間	個人/グループ	審査	発表	展示会	授賞式	閉会
10/1～10/31	10/1～10/31	11/1	11/1	12/2～12/12	12/12	12/12

◆問い合わせ先
一般社団法人伝統的工芸品産業振興協会 企画部公募課事務局 TEL: 03-6421-9315・mail: kouhou@kougou.or.jp

ポスター・チラシ (表)

チラシ (裏)

◆展示会

2022年度第47回 全国伝統的工芸品公募展

2022年12月2日(日)～12月12日(月)
10:00～18:00 (最終日18:00まで)

国立新美術館 1階展示室1D (東京都港区六本木7-22-2)
東京都千代田区千代田1-10-1(丸の内線) 丸の内線千代田駅より徒歩10分

優秀作品展
2023年1月4日(木)～1月12日(水)
11:00～19:00 (最終日18:00まで)
東京都千代田区千代田1-10-1(丸の内線) 丸の内線千代田駅より徒歩10分
https://kougen.jp/

2022年度第47回 全国伝統的工芸品公募展

2022年12月2日(日)～12月12日(月)
10:00～18:00 (最終日18:00まで)

国立新美術館 1階展示室1D (東京都港区六本木7-22-2)
東京都千代田区千代田1-10-1(丸の内線) 丸の内線千代田駅より徒歩10分

優秀作品展
2023年1月4日(木)～1月12日(水)
11:00～19:00 (最終日18:00まで)
東京都千代田区千代田1-10-1(丸の内線) 丸の内線千代田駅より徒歩10分
https://kougen.jp/

ポスター

チラシ (表)

JAPAN'S TRADITIONAL CRAFT COMPETITION 2022

2022年度 第47回 全国伝統的工芸品公募展

国立新美術館 1階展示室1D (東京都港区六本木7-22-2)
東京都千代田区千代田1-10-1(丸の内線) 丸の内線千代田駅より徒歩10分
https://www.nact.jp

優秀作品展
国立新美術館1階展示室1D (東京都港区六本木7-22-2)
東京都千代田区千代田1-10-1(丸の内線) 丸の内線千代田駅より徒歩10分
https://kougen.jp/

チラシ (裏)

2022年度第47回 全国伝統的工芸品公募展

2022年12月2日(日)～12月12日(月)
10:00～18:00 (最終日18:00まで)

国立新美術館 1階展示室1D (東京都港区六本木7-22-2)
東京都千代田区千代田1-10-1(丸の内線) 丸の内線千代田駅より徒歩10分

優秀作品展
2023年1月4日(木)～1月12日(水)
11:00～19:00 (最終日18:00まで)
東京都千代田区千代田1-10-1(丸の内線) 丸の内線千代田駅より徒歩10分
https://kougen.jp/

DM (日本語)

会場アンケートにご協力いただいた方には、ささやかな記念品をプレゼントいたします。

2022年度 第47回 全国伝統的工芸品公募展

日本中から伝統工芸品が「六本木の美の殿堂」に集結!

展示会が恒例100年以上の歴史を誇る伝統的工芸品は、現代生活の中で求められる新しいアイデアや表現を取り入れ、発展的な伝統的工芸品を創出し、国内外でも世界的マーケットにも通用する魅力的な国際的発信を行うことを目指しています。

本年最も多くの作品を創出し「賞状副賞」での表彰を受賞し、生活の中で実際に使用可能な作品として、国内外にもっとも愛用され、最も多くの賞状副賞を授けられます。

展示会 期間: 10月1日(土)～10月31日(月) 会場: 国立新美術館(東京都港区六本木) 10F-1005 展示室(丸の内線) 丸の内線千代田駅より徒歩10分 TEL: 03-6421-9315

JAPAN'S TRADITIONAL CRAFT COMPETITION 2022

Dec. 2 (Fri.) ~ Dec. 12 (Mon.)
10:00 ~ 18:00 (Final day 18:00)
Admission Free (Closed on Dec. 25th)

The National Art Center, Tokyo
Gallery 1D
(7-22-2 Roppongi Minato-ku Tokyo 106-8558 Japan)
Times: 11:00-19:00 (Final day 18:00)
Closed on Dec. 25th (New Year's Day)

Award Winner's Exhibition
Jan. 4 (Wed) ~ Jan. 12 (Thu), 2023
11:00-19:00 (Final day 18:00)
Times: 11:00-19:00 (Final day 18:00)
Closed on Dec. 25th (New Year's Day)

DM (英語)

We will give a gift as a small token of appreciation for filling out the questionnaire.

JAPAN'S TRADITIONAL CRAFT COMPETITION 2022

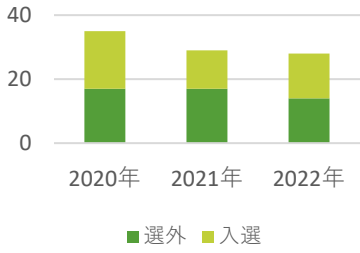
Traditional crafts from all over Japan gather in the "Hall of Arts in Roppongi!"

There are more than 200 designated traditional crafts nationwide, with advanced craftsmanship and history of over 100 years. "Japan's Traditional Craft Competition" gathers these crafts, and the competition winners not only their skills and beauty, but originally to use in our daily life. We will hold the exhibition at the National Art Center. Please to show these masterpieces to a large audience. Please come and enjoy the beautiful beauty of the craft. We are pleased to welcoming you to this delightful event at the end of the Season of Art, Autumn!

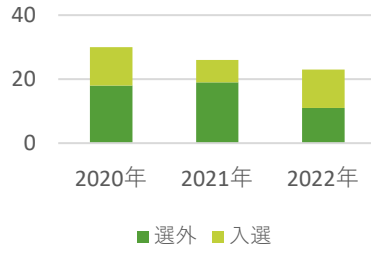
Contact: The Association for the Promotion of Traditional Craft Industries
6-2-22 Akasaka, Minato-ku, Tokyo 106-0002 JAPAN
TEL: 03-6421-9315・FAX: 03-6421-9316・mail: kougen@kougen.or.jp

工芸品別 過去3年間の応募数推移

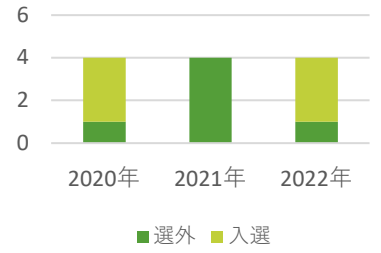
織物



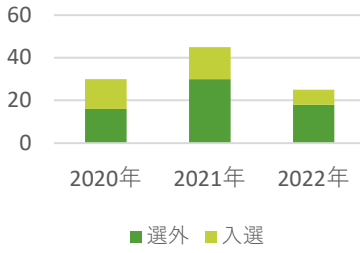
染色品



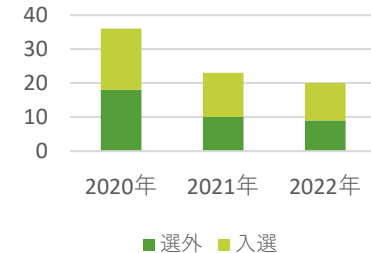
繊維製品



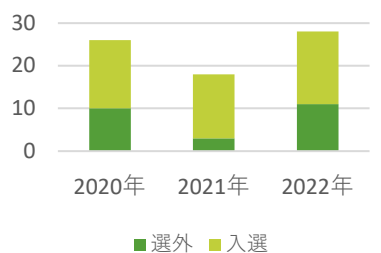
陶磁器



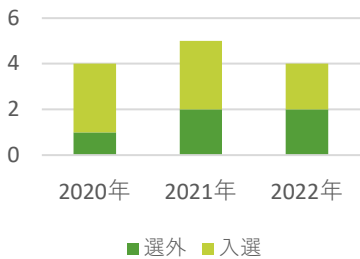
漆器



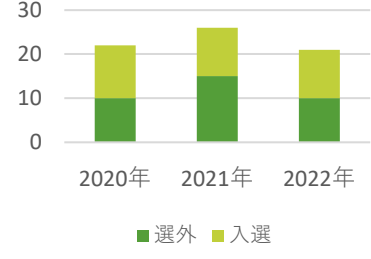
木工品



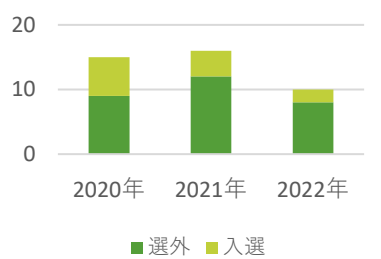
竹工品



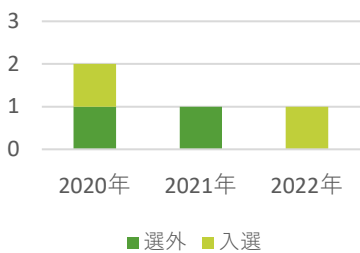
金工品



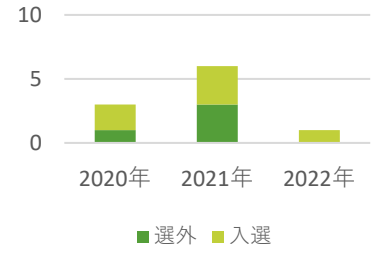
仏壇・仏具



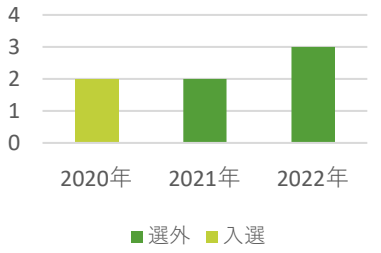
和紙



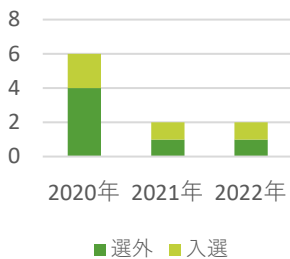
文具



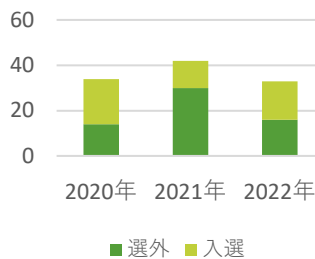
石工品



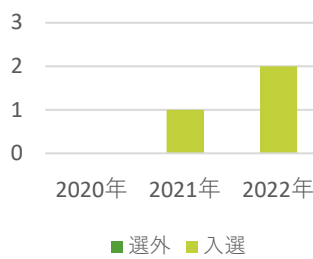
人形・こけし



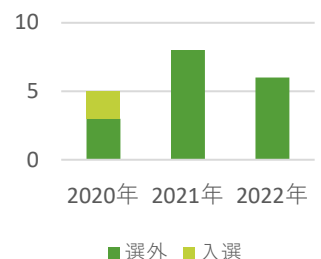
諸工芸



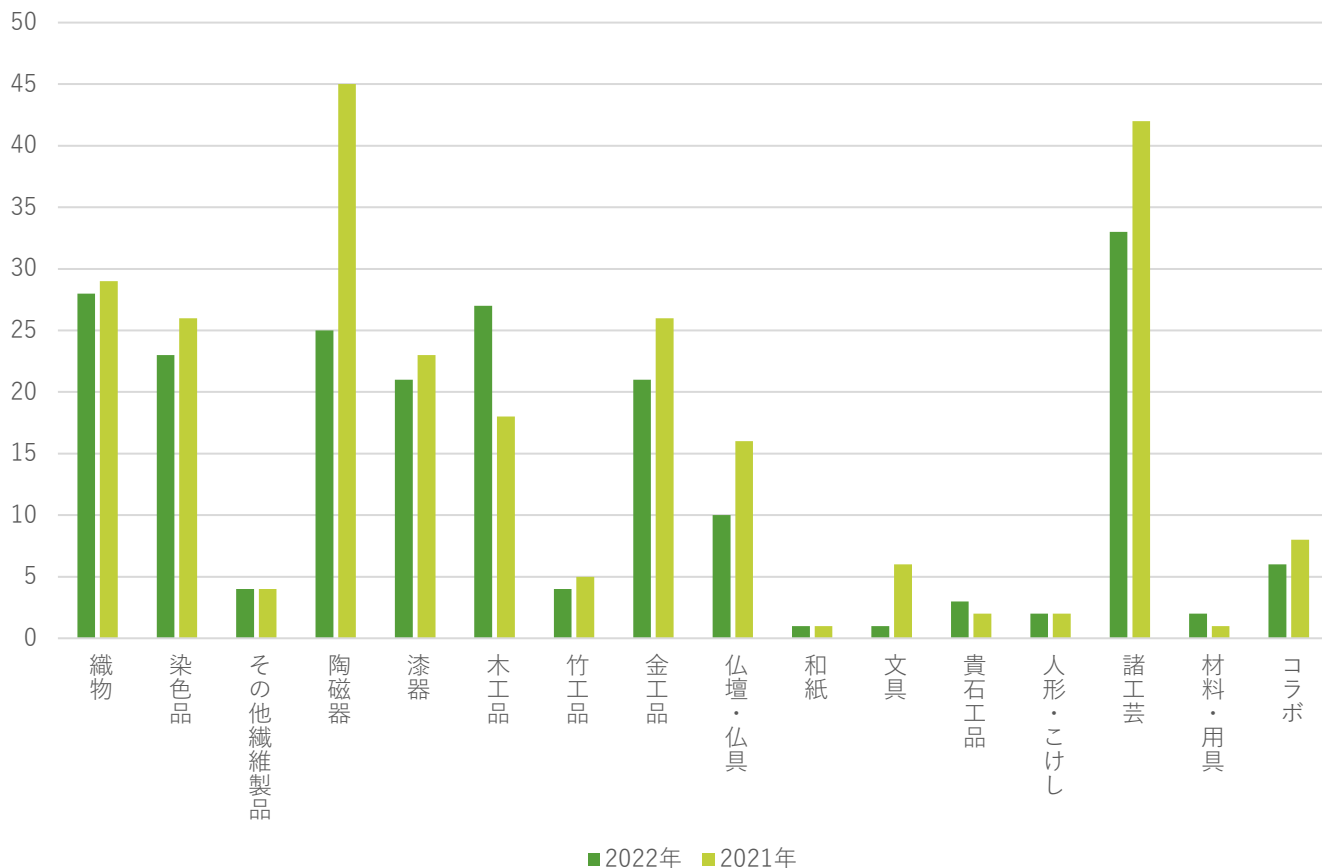
材料・用具



コラボ



業種別の応募点数（前年度比較）



都道府県別応募点数

